

自主回収認定容器 一升壺を使い続けるため

ガイドラインの順守を!

丸正1.8L壺(一升壺)は、日本の文化ともいえる、長い歴史のあるリターナブルびんであり、容器包装リサイクル法第18条の自主回収容器に認定され、再商品化を免除されています。

自主回収容器の認定は利用事業者・容器・色ごとに認定されますが、一升壺は共用のリターナブルびんとして広くリユースされているため、例外的に当協議会が事業者となり、当協議会加盟団体の会員企業は再商品化が免除されています。

資源循環と環境負荷低減に優れた一升壺ですが、回収率は低下傾向が続いているのが現状です。自主回収認定は「自主回収の方法が主務省令で定める回収率(おおむね90%)を達成するために不適切なものとなった場合は取り消す」ことができますとなっています。

仮に取り消されますと、一升壺の利用事業者全体で約5億円※の再商品化実施委託料を負担することになり、大きなコストインパクトになります。

自主回収容器の認定と共用リターナブル壺のリユースを維持・継続するためには、回収壺の積極的な再使用とともに、リユース可能な状態での出荷が不可欠です。

つきましては、一升壺が共用の自主回収認定容器であることをご理解いただき、引き続き一升壺をご使用になる場合には「再使用に配慮した1.8L壺 自主ガイドライン」を順守していただきますよう、お願いします。

※ 1.8L壺利用及び回収に関する調査結果(2024(令和6)年度実績)から試算



再使用に配慮した1.8L壺 自主ガイドライン

項 目		自主ガイドライン	説 明	
1	びんの色		<u>茶・緑色</u> 以外のびんはできるだけ使わない	黒、透明、青などの茶色と緑色以外のびんはもともと使用本数が少ないため、回収しても再使用の需要がほとんどなく、フロスト加工のびんは傷がつきやすく再使用に適さないため、実態としてはワンウェイびんとして使用されている
	出荷荷姿		<u>P箱</u> での出荷が望ましい	回収時のP箱が不足し、回収びんの量と品質に支障が出るため、再使用できないびんが発生する
	3	A. 種類	<u>グルーラベル</u> をできるだけ使用する	裏面に糊がなく、びんに貼る直前に糊付けするため、洗びん時に剥がしやすい
		B. 素材	以下の <u>浸透性のある紙</u> をできるだけ使用する ・コート紙 ・アート紙 ・上質紙	洗びん時に水が浸透しやすいため、剥がしやすい
C. 表面加工		<u>加工していない</u> ものが望ましい。 加工する場合は以下の浸透性のある加工をできるだけ使用する ・ニス加工 ・エンボス加工	洗びん時に水が浸透しやすいため、剥がしやすい	
D. 糊		種類	以下の <u>水溶性</u> のものをできるだけ使用する ・でんぶん糊 ・ポパール糊	水溶性のため、洗びん時に剥がしやすく、糊跡が残りにくい
	塗り方	できるだけ <u>少ない量</u> を塗る	洗びん時に剥がしやすく、糊跡が残りにくい	